



令和3年12月21日

担当課	文化振興課 博物館
担当者	太田・前田
電話	073-423-0003
内線	

3代重国作の刀の寄贈について － 12月23日に寄贈品の受入式を行います－

このたび、和歌山市在住の高木好枝様たかぎ よしえから和歌山市立博物館に江戸時代に作られた刀を寄贈いただくことになりました。江戸時代に活躍した紀州徳川家お抱えおかかえの刀鍛冶かたなかじで、一般に「南紀重国」と呼ばれた刀工の3代目の作品です。

つきましては、次のとおり、寄贈品の受入式を行います。

- 寄贈者 高木好枝様たかぎ よしえ
- 寄贈品 3代重国作の刀 (別添参照)
- 開催日時 令和3年12月23日(木) 午前11時10分から
- 開催場所 和歌山市役所 4階 市長室
- 出席者 高木好枝様たかぎ よしえ
和歌山市長 尾花正啓

6 重国について

重国は、紀州徳川家のお抱え刀鍛冶で、初代藩主徳川頼宜とくがわよりのぶの紀州転封てんぽうの際同行し、紀州に來住しています。江戸時代前期の刀工では上位に入り、一般に「南紀重国」として知られる名工です。

初代重国の後は、2代、3代、4代と「重国」を称しますが、刀銘には「文珠」を付けています。本刀は、銘や刀の作風から、3代の重国の作品と認定できます。

7 展示予定

本刀は、令和4年3月12日(土)から同年5月15日(日)まで開催予定の「新収蔵品展」で展示を行う予定です。

【3代重国作の刀】



資料の概要

1 刀剣

刀 一振

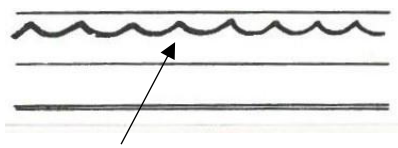
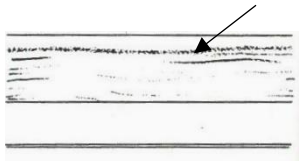
銘 「於南紀文珠重国造之」(なんきにおいて もんじゅしげくに これをつくる)

長さ 刀身長 668mm (全長876mm)

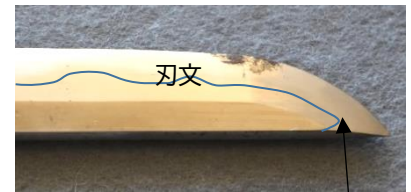
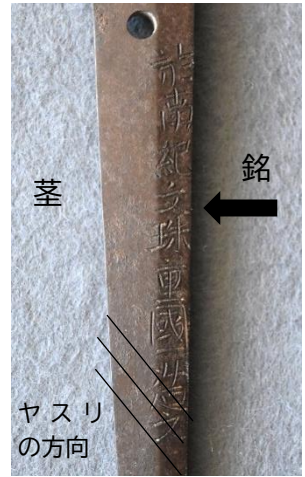
状態 切先に錆があるが、そのほかの部分的良好

特徴

- ・形 中央付近でわずかに反り、先にいくほど細くなる。
- ・切先 刃文の先が小さく丸くおさまり、先に向かって筋がある。
- ・地肌 地肌は直線的な柂目(まきめ)が混じり大和の刀工の特徴がある。



- ・刃文 波のように丸い形が連続する「互の目(ごのめ)」で細かい粒子(沸(にえ))が見える
- ・鑢目(やすりめ) 手元の茎(なかご)のヤスリ(やすり)の方向が右下がり



小さく丸くおさまる

以上の銘や特徴から、本刀剣は3代重国の作と考えられる



2 重国について

紀州徳川家のお抱え刀剣鍛冶で、江戸時代を通じて11代にわたり作刀した。初代重国はもと大和の刀工で、一時、駿河(静岡県)に住んだが、徳川頼宣の紀州転封の際同行し、紀州に来住。江戸時代前期(17世紀)の刀工では上位に入り、一般に「南紀重国」として知られる名工である。寛永14年(1637)没。

初代重国の後、2代、3代、4代と「重国」を称するが、刀銘には「文珠」をつける。5代から7代は「国勝」を名乗り、そのあと11代重国(明治33年没)まで続いた。